

堀川同窓会報

HORIKAWA ALUMNI ASSOCIATION JOURNAL

第10号

2017年3月発行

HORIKAWA
109th



同窓会会長
市田ひろみ

京風の礼

私はこんな年（内緒）になっても今も現役で仕事している。きものこと、京の歴史のこと、お店のこと、衣・食・住のこと。何でも屋さんで、紹介している。

著作も90冊を超える。その内、レストラン紹介のものは台湾で翻訳されて販売されている。2月のある日、私が時々行く小さなおばんざい屋さんに行ったら、台湾の観光客が5人カウンターに並んでいて真ん中に「大人の京都 路歩き」（台湾版）が置いてあった。

おかみさんが「この人よ」と言ったら、「ウッソー、ホント?」「写真良いですか?」「ウワー、チャー」。

「今日も、この本見て、来てくれはったんや。先生、おおきに」とおかみさんも上気嫌。こんなめずらしいこともあるんだと思いつつ、私の晩御飯は30分も遅れた。

さて、食事もすんで帰ろうとしたら

「すみませんでした」

「ありがとうございました」

「思い出になりました」

「写真、ありがとうございました」

5人はそれぞれ礼を言ってくれた。

台湾へ帰っても、彼女たちは京都の思い出として、私と本のことをしゃべってくれるだろう。

御礼の言葉は京都では「二度礼」といって、今日、何か頂いたら、「ありがとうございました」。翌日は「昨日はありがとうございました」。次に「先日はありがとうございました」。そして「いつぞやはありがとうございました」と言う。

礼儀は、感謝の気持ちを込めて、ゆきとどいた挨拶が出来るようになりたいものだ。

学問とともに、礼儀は親から子へ伝えられてゆく。これは、そのまま、ゆきとどいた京都の美風として、京都の空気として、伝えられてゆくものだろう。



堀川高校校長
恩田 徹

二兎を追う若き狩人

平素は母校の発展にご理解とご協力、ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。本年度の4月16日に盛大に開催されました第108回の同窓会総会の場で昨年度の卒業生6名に奨学支援金を授与していただき、誠にありがとうございます。

また、昨年のご報告の中で、本校邦楽部の奮闘とお琴のご寄付をお願いさせていただきましたところ、昭和44年卒業の西塾八重子様より琴4面と三味線5丁をいただき、福山市での全国高等学校総合文化祭で全国の常連校と肩を並べて演奏することができ、感激いたしました。同窓会のお力に心より敬意を表します。

本当にありがとうございました。皆様方の高い志に心より感謝申し上げますとともに、どうか今後とも本校教育へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

おかげさまで国が進めようとしている三位一体の教育改革（高校教育改革、大学教育改革、高大接続改革）のそこかしこに「探究」がちりばめられ、うれしい反面、面はゆい気持ちでもあります。いつの間にか、社会人を育てための教育が受験というビジネスに目を奪われ、高性能だけど操作されないと何もできないロボットのような人間をつくってしまっていないでしょうか。一方でこの10年ほどでロボット技術は急速に進化しました。いまでは「まじめで素直」という資質だけでは、安価に長時間働くロボットや人工知能に勝てなくなっています。知識を伴う好奇心に勝るものはないと存じます。いまこそ、「やったことがないことをやりたがり、あきらめず、工夫する」人材が必要ではないでしょうか。正解だけを覚える教育や偏差値による進路選びから脱却した「自立する18歳」の育成は、脈々と100年を超えて流れる堀川の伝統です。どうか引き続き温かく、厳しいお見守りをお願い申し上げます。

同窓会の皆様のみますますのご健勝と、今後とも、母校への一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

文化祭に参加して

懐かしい母校は今、どんな雰囲気なんだろうか？

昨年秋の堀川高校の文化祭を昭和50年卒業の同窓生5人で訪ねてみました。

「堀川のKSK」
～この瞬間を君と共に～
2016.9.3～9.4



オープニング

9月3日午前9時。いよいよ文化祭が始まる。

「準備はいいか——」

マイクを持った校長が上に向かって大声で呼びかける。アトリウム(校舎中央の吹き抜け)を囲む階段に鈴なりになった生徒たちが「ウォーッ」「オーッ」と力強くうなり返す。

「文化祭はただの行事ではない。力と意欲と人間性のすべてだ！」と、生徒たちを挑発するかのごとくに校長が言い放つ。

ものすごい量の熱がぶつかり、交歓する。校長と全生徒。この吹き抜けになった空間が、そして響き合う。

こんな文化祭の始まりもあったのかー。

校長先生、「ココ」に降臨！

堀川の「ヒミツ」を一つつけた気がした。

校長、先生、生徒たちの日ごろの距離感まで想像できそうだ。



おいでやす 染のまち本能

「ことしの文化祭の目玉商品は？」との問いに執行部の彼は、即座に「地元本能学区とのコラボです。今年は染物の体験ブースがあるんです」と教えてくれた。

行ってきました。(しかし、チケットはすでに売り切れ、見学へ)そこには、堀高生の他に親子連れの姿もあり、職人さんに手とり足とり教えてもらいながら、伝統的な京友禅の「型染め」を楽しんでいました。

古くからの紋様や季節のウサギの他にダ



ブル「H」の校章を表したもので。自分で作った一点物のハンカチの出来上がりです。

ここ堀川高校のある本能学区は「白生地を持って行くと染着物が完成する」と言われてきた染物の町。そこの熟練の匠に京友禅の技術を伝えてもらえるなんて、京都の文化を味わうことのできるまたとない機会です。



さて、堀川高校には「本能学舎」という別館があるのを聞かれたことがあるでしょうか。児童数の減少により廃校となった本能小学校の跡地に作られました。今から10年程前のことです。そこには、高齢者福祉施設や自治会館といった地元施設も軒を並べています。

それまで地域とは、文化祭のポスター貼りをお願いしたりのお付き合いはありましたが、言わばお隣さんになり、年末の本能学区の「餅つき大会」に堀高生が参加して、一緒にお餅をほおばったり、文化祭に福祉施設の利用者さんに来ていただくなどの交流が持てるようになりました。

そして、また一步。地域(=社会)の方々と手を組んで進められてきたのが今回の「染もの体験」だったのです。

このように進学校という枠に留まることなく、開かれた未知の世界へ漕ぎ出してゆく、堀川の「ヒミツ」がここにもありました。

準備されたところ

たっぷり校舎内を巡ってみて、企画やパフォーマンスの数の多さに驚く。

アトリウムや講堂での「クラス企画」が、全18クラスちゃんとあって、その他、クラブ主催、研修発表、有志のものまで様々。ひとりごとに関わっているのだろう。2日間で70はありそうだ。

しかも、そのどれもにしっかりと血が通っている。いい加減さが少しも感じられない。そして、我々を楽しませてくれながら、皆が自然にその場その場を楽しんでいる。



学食でよみがえる 懐かしいあの頃…

— どういうことなん？

日常の「学習」と「探求」だけでももう十分に大変なはずだろうに…。

— どうしてこんなことができるの？

ここで再び執行部の彼に一。

Q 文化祭の準備はいつから始めるの？

A 毎年10月に生徒会が代替わりし、その頃から企画が始まります。そして4月の組替えのあとクラス企画が動き出し、6月ごろには、あちこちのスペースはダンスの練習で埋まります。

Q いつ勉強してるの？

A (僕の場合) ONとOFFをはっきりさせています。勉強するにも雰囲気よくしないと…。

「ナル・ホ・ド」

準備したはるんやなあ。

「校長先生、生徒さん準備ちゃんとしたはりませ」

この日、文化祭で堀高生に接して何を感じただろう。みんな感じがいいのです。

「意欲」「加減のよさ」「礼儀」、それに「格調の高さ」を感じるのです。

それは、日々何かに挑戦し、高みを目指しているからでしょうか。そして「準備されたところ」を持っているからでしょうか。

最後に堀川のいちばんの「ヒミツ」は、やっぱり、このひとりひとりの生徒たちだったのかも知れないと思えてきた。

ことしの文化祭のテーマ

「堀川のK S K」～この瞬間を君と共に～

この一粒一粒の「輝石」がこれからどんなにかがやいてゆくことだろう。楽しみにさせてもらおう。

— 帰り道「また明日も来たいね」という声が出た。—



【小山(小林)庸子】

昭和50年卒の仲間たちと文化祭を訪れた際、学食でお昼を食べました。当時と比べ、学ぶ環境が様変わりしていましたが、学食の施設もメニューも充実していました。

メニューは、チキン照り焼き丼350円、カレーライス320円、ラーメン270円など数多くあり、コックさんもいて、大学の学食のような感じでした。

— 一回り上の先輩(今年72歳)に昔の学食について尋ねると、「学食なんてなかった」「みんな、近くのうどん屋ですませていた」そうです。

われわれの時代(昭和47年～49年度)の学食の様子を紹介するにも歳のせいか私の記憶だけでは怪しいので、1年上の先輩に思い出してもらったところ、「メニューにはきつねそば、きつねうどん、たまごどんぶりの3つしかなかった」。

また、「日替わりの定食や定番のカレーライスなどもなく、(量的には)そば(うどん)とどんぶりをセットで頼んで、値段は2つあわせて150円前後だったと記憶している」とのことです。

学食を利用するのは男子だけで、女子が利用するところを私も先輩も見たことがありません。

安価なのはいいが、メニューの乏しさにそのうち飽きてしまっていた冬の寒い日、級友と四条堀川にあった食堂に行ったところ、ドリアがメニューにありました。

ドリアは、日本では昭和の初期に横浜のレストランで初めてお披露目されたようですが、在校当時、グラタンはともかくドリアなんて知らなかったし、現在ほどメジャーな料理ではなかったと思います。

メニューを見て、「グラタンふたつ！」とでも頼めば、事前にその違いくらいは教えてもらえたのかもしれませんが、メニューの写真を指差し、「これふたつ」とドリアを頼みました。

食べ始めて、そのグラタンにご飯が入っていることに、「これ何や！」と驚きつつも、はじめて食べるバター味の米料理に、「これ、意外とうまいな」「たしかに、うまい」となって、そのとき、はじめてドリアという料理の存在を知りました。

別の日、授業が休講になり、級友とたむろして喫茶店に入り、それぞれ好みの飲み物を頼みました。そのうちの一人が、これも当時珍しかったウィンナーコーヒーを注文しましたが、ウェイトレスさんが持ってきた生クリームがいっぱい載ったコーヒーを見て、「ウィンナー(ソーセージ)がついていないんですけど」。

まだまだ、今ほど食生活が豊かでなかったけど、日本が元気一杯だった時代の高校生の思い出です。

【森木晋也】



現在の堀川高校 平成28年度部活動・公認自主活動の紹介

部活動・自主ゼミ名

- ①生徒数
- ②活動内容 戦績・実績等
- ③一言コメント

剣道部

- ①男子15名 女子15名
- ②第54回近畿高等学校剣道大会
男子団体出場
第69回京都府高等学校総合
体育大会 女子団体3位
- ③男女近畿大会出場を目指して
頑張ります!!

山岳部

- ①14名
- ②月1回の日帰り山行きを計画し
ました。また、一泊山行きを大
阪の金剛山で行いました。
- ③装備や活動が少しずつ充実し
てきています。

サッカー部

- ①選手25名
マネージャー 2名 計27名
- ②平日は校内グラウンド、土日は
練習試合や嵯峨野グラウンド
で活動を行っています。限られ
た時間、場所で、「勝利」を目指
して活動しています。
- ③たくさんの方々に応援してもら
える部活を目指しています。

テニス部

- ①1年男子11名・女子10名(21名)
2年男子13名・女子7名(20名)
3年男子18名・女子1名(19名)
- ②総体男子団体ブロック準優勝
(ベスト8)、女子団体ブロッ
ク第3位(ベスト16)。選抜大会
(男子団体)ベスト8。
- ③男女とも熱心に練習・試合に
取り組んでいます。

ソフトボール部

- ①9名(うちマネージャー1名)
- ②③平日の放課後と土日の午
前または午後練習をしてい
る。他校と合同練習を行うこと
もあり、公式戦に出場してい
る。インターハイ予選初戦、
コールド勝ちを収めた。

硬式野球部

- ①部員13名 マネージャー1名
- ②③平成26年度の入試改革以
後は、部員が集まらず、平成27
年度の新チーム発足時は合計
8人となり、他の部活から助っ
人に入ってもらい、ようやく大
会に出ることができました。
1年生が8人入部し、活気が戻
り、夏・秋の大会ともに初戦を
突破することができました。

男子バスケットボール部

- ①26名
- ②③男子バスケットボール部
は、府大会出場を目標に、限ら
れた練習時間の中で練習内容
を工夫し、スキルの向上・チー
ム力の向上を行っています。
今後ともどうぞよろしく願い
いたします。

女子バスケットボール部

- ①14名(3年生含め)
- ②③今年5月に行われるIH予選
でベスト8を目標に日々の練習
に取り組んでいます。その過程
として、夏の市立大会では準
優勝を目標にし、見事達成す
ることができました。11月と3
月にOB・OG戦を開催していま
すので、ぜひお越しください。

バドミントン部

- ①40名
- ②主にアリーナで活動していま
す。5月にインターハイ予選、
8月に近畿大会予選、10月と1
月に新人大会があります。
- ③技術向上だけでなく、人間的
な成長も目指して日々頑張っ
ています。

男子バレーボール部

- ①2年生:選手8名・マネージャー2名
1年生:選手6名・マネージャー1名
- ②平成28年度京都市立高等学
校男子バレーボール選手権大
会優勝
- ③週5日の練習・練習試合に精
力的に取り組む、自主自立の
チーム運営で高みを目指して
います。

女子バレーボール部

- ①9名
- ②③週3～6日の活動で、活動の
方向性は生徒自身が決めてい
ます。大会での上位を目指す
場合もあれば、楽しく活動する
ことを重視する場合もあります。

陸上競技部

- ①1年18名 2年17名 計35名
- ②年間6回の公式戦と市立大
会、京都陸上競技協会の記録
会、京都選手権に参加をして
います。昨年は4名の生徒が近
畿インターハイに出場し、1人
が夏の全国インターハイに出
場しました。また、夏の近畿ユ
ース大会では走高跳で優勝を
果たしました。生徒は皆、全国
大会優勝を目標に日々、練習
に励んでいます。
- ③陸上競技部では日々活動させ
ていただけることに感謝の気
持ちは忘れないよう心がけて
います。これからもご支援賜り
ますようよろしくお願いいたします。

英語部

- ①20名
- ②③日頃はALTの先生方と英会
話を楽しみながら、スピーチコ
ンテストや英語プレゼンコン
テストに出場したり、年2回校
外で観光客に英語でガイドを
行っています。

演劇部

- ①9名(1年生4名 2年生5名)
- ②③新入生歓迎公演(4月)、文
化祭公演(9月)、クリスマス公
演(12月)など、校内公演を年
4回程度行っています。最近
は部員による脚本の劇にも挑
戦しています。

茶道部

- ①16名
- ②③週1回、裏千家学校茶道講
師指導の稽古。文化祭茶会
は一般参加可。海外の学校か
らのお客様への茶道体験指導
や接待など、活動の幅を広げ
ている。「おもてなし」の心と
ふるまいをテーマに日々精進。

食物部

- ①1年5名 2年5名 3年8名
- ②③普段はお菓子作りを中心に
活動しています。長期休業中
はランチメニューにも挑戦し
ています。メニューは生徒たち
で考えます。毎年の文化祭で
は模擬店を出しています。

文芸部

- ①3年3名 2年3名 1年1名
計7名
- ②年に3～4回出している部誌
を中心に、文章に関するコン
クールに出したりしながら楽し
く活動しています。
- ③お時間があれば、指導してくだ
さるとありがたいです。

吹奏楽部

- ①29名(1年生10名 2年生19名)
- ②③今年度はプラハの夕べや本
能夏祭りなど、多くのお客様の
前で演奏させて頂きました。
3月26日、堀川音楽高校で第8
回定期演奏会を行います。ぜ
ひお越し下さい。

電算機研究部

- ①1年13名 2年3名 3年13名
- ②文化祭でのゲームディスク販
売を目標に、部活内でチー
ムを作ってゲーム開発に取
組んでいます。
- ③「電算部はいいぞ。楽しいぞ」
をスローガンに頑張ってます。

美術部

- ①1年生7名 2年生2名 3年生6名
- ②③絵画・イラスト等を中心に、
自由に制作をしています。文
化祭では、展示発表をしてい
ます。

軽音楽部

- ①37名
- ②③文化祭や季節ごとに校内で
ライブをしています。「グッと
くる」ステージの実現を目標に、
そのために必要な練習や機材
の勉強会などを重ねています。

自然科学部

- ①32名
- ②個人研究、文化祭展示、青少年のための科学の祭典 出展、SSH生徒発表会での発表、SSH合宿企画・参加など。
- ③モットー: Fool on science

邦楽部

- ①2年生8名、1年生4名
- ②第32回京都府高等学校総合文化祭 連盟賞受賞
第40回全国高等学校総合文化祭 2016ひろしま総文出場
- ③楽しくをモットーに、練習に取り組んでいます。

新聞局

- ①生徒数4名
(3年…1名、2年…2名、1年…1名)
- ②③今年度は「学校に風を起す新聞」をモットーに、より丁寧に読者の興味・関心に寄り添った記事作りを心がけて活動しています。6月には「選挙権18歳へ」というタイトルで選挙特集を組みました。また、10月には今年度から堀川高校で始まった「自立する18歳の日」に関する校長先生のインタビュー記事を発行しました。次号では、先日実施した「全校アンケート」をもとに、この日の有意義な活用方法についての体験談をまとめた特集記事を出したいと現在準備を進めています。

放送局

- ①5名
- ②③毎日の昼の放送、文化祭・体育祭のインフォメーション、学校説明会の司会など。コンテストにも参加し、今年度は、入賞や全国大会出場を果たしています。

ボート部

- ①1年生8名(男4、女4)
2年生5名(男3、女2) 合計13名
- ②③琵琶湖で毎週末ボートを漕いでいます。18年間の休部から復活してまだ2年目ですが、府大会で入賞するなど現在最も波に乗っている部です!

GAP

(Global Academic Project)

- ①32名
- ②③来年度、京都市姉妹都市を呼び京都にて行う高校生国際会議の内容企画・運営面を、準備段階から京都市と議論を重ね創り上げていく組織です。ぜひ、堀川高校のホームページをご覧ください!

HDC

(堀川ダンスカンパニー)

- ①2年生11名 1年生8名
- ②③「京都をダンスで元気にする」を目標に、ダンス企画や地域イベントへの参加を通じて、企画運営の方法を学びつ

つ、地域活性化への貢献を目指して活動しています。

Sknect

- ①6名(3年生女子)
- ②③支援・防災について関心を持ってもらうための方法を考え、発信する活動を行っています。昨年度はエコキャップ活動を、今年度は防災啓発活動を文化祭で実施しました。

フィレンツェゼミ

- ①4名(3年生男女)
- ②③京都にとっての課題と感じている交通規制について、昨年度フィレンツェ市内で調査活動を行った。今年度は京都市や外部に向けて調査結果を報告・提案する活動を行った。

ハイレベル理数ゼミ

- ①8名
- ②科学の甲子園を目指した勉強会や実験を生徒たち自身で計画して、週2回ほど集まっています。
- ③理数の精鋭が揃ってます!

バイオロジーゼミ

- ①8名
- ②③大学教養レベルの生物学(生命科学)に関する勉強会や実験を輪番で進めています。大学等の研究者をお呼び

しての講演会も開催してきました。

数オリゼミ

- ①9名
- ②③数学オリンピックの過去問を解いたり、解くために必要な背景知識をメンバー同士で学習したりする。主に2016年度前期では高校数学で学習する機会のない『グラフ理論』について書籍を購入し輪読するスタイルで学習をすすめた。数学オリンピックの予選(平成29年1月9日)には数オリゼミから4名と数オリゼミに加入していない1年生から2名が参加した。予選で優秀な成績を収めることができれば本戦(平成29年2月11日)に進むことができる。

超弦理論ゼミ

- ①10名
- ②③物理学とその思想をより深く理解することを目的としたゼミです。これまで力学と電磁気学の基礎理論をゼミメンバーで順番にプレゼンをしながら学び、現在は量子力学を学んでいます。

琴の寄贈に感謝

昨年の同窓会報(第9号)で、恩田校長が2016年8月の全国高校総合文化祭日本音楽部門への出場が決まった邦楽部が、演奏するお琴が足りずに困っており、どなたか使わなくなったお琴があれば譲っていただけませんか、とお願いされたのを覚えておられますか?

恩田校長も今年のご挨拶で書かれているように、それに即座に応じて下さった卒業生がおられます。昭和44年ご卒業の西埜(西村)八重子さん。長年にわたり、お琴を教えておられた方で、ほんのしばらくですが堀川高校の邦楽部にも所属されていました。現在使用していない琴4面、三味線5丁を軽トラックに積んで、6月に学校へ届けて下さいました。

邦楽部が京都府大会で最優秀賞を勝ち取った事も驚愕に値します。

お稽古事は6歳の6月6日から始めると上達が早いなどと言われ、幼い頃からの練習が必須と思われる邦楽。でも、堀川の部員達は、全くの初心者ばかり。琴の音色に魅せられ、師匠には琴柱の立て方だけを教えていただき、後はすべて「YouTube」を師と仰いで練習を重ねました。

正に、IT時代の申し子たち。繰り返しYouTubeで確認したから、お辞儀には自信があったとか。ふくやまりーデンローズでの全国大会で、精一杯の演奏を披露。西埜さんも「出来れば聴きに行きたかった」と話しておられました。

琴を演奏したい、上手になりたいという気持ちがあれば、自力で実現していく堀川の邦楽部員達に大きな拍手を。そして、温かいご支援をいただいた西埜さんに心より感謝いたします。



昨年11月の京都府高等学校総合文化祭で演奏する邦楽部のみなさん(京都市東部文化会館)

【二階堂(吉田)恵子】

第108回堀川同窓会 報告



昨年4月16日にANAクラウンプラザホテルで第108回堀川同窓会が開催されました。高27期卒(昭和50年卒業生)が運営を担当しました。市田ひろみ会長の挨拶・堀川高校恩田校長の祝辞・堀川音楽高校藏野教頭の祝辞・堀川賞受賞者(2016年3月卒業生)の将来の夢・ラポーオールスターズによる懐かしのメロディーの演奏・門川市長の講演「京都おもしろ話」・堀川高校生徒会歌「緑なす森に」の合唱・「ふるさと」の合唱という内容でした。





157名の出席者で同じ学年の人と同じテーブルに座って頂き、テーブルビュッフェ形式(テーブルまで人数分の料理が運ばれてくる)により、とても和やかな楽しい時間があったという間に過ぎていきました。ご出席頂いた皆様、ありがとうございました。





同窓生インタビュー

戸田 圭一 さん

(高27期 昭和50年卒)

京都大学大学院工学研究科
教授

●「都市水害」を研究テーマに●

「都市水害」の専門家として活躍されていますが、「都市水害」とは分かりやすく言うところのどのような研究テーマなのでしょう。

最近、短時間に激しい雨が降るゲリラ豪雨などの災害が増えています。その時に都会では地下街などの複雑な都市構造が影響して思わぬ被害が起きることがあります。その予測や対策が中心で、私は特に地下空間への浸水や氾濫時の車に関することを扱っています。

●アメリカ留学、民間会社を経て防災研究へ●

その研究テーマに進まれた経緯は？

もともとは交通土木が専門でした。京都大学で大学院まで行ったあと、アメリカのアイオワ大学に留学して博士号を取得、30歳までいました。研究者になりたいという思いがあったのですが、帰国した時はちょうど大学にポストがなく、民間の建設コンサルタント会社に就職し、約8年半勤めました。その時に大学の恩師から「来ませんか」と誘われたのが宇治市にある京都大学の防災研究所でした。都市水害というテーマに新たに取り組むような研究室だったので、1995年からその一員として研究を始めました。

●実物大の階段、ドアを使って体験型の実験も●

防災研究所では、具体的にはどんな研究をされてきたのでしょうか？

防災研究所にはすごく大きな実験所があったので、京都の地下街の縮尺30分の1の模型をつくって、地下に水が浸入して行けばどのような状況になるのか実験しました。京都市内で200年に一度のような大雨で鴨川から毎秒100トンの水があふれたとすると、全体の3割以上が地下街に入り、地下鉄の切符売り場はすぐに胸のあたりまで水につかること、階段を流れ落ちる水が激流となって簡単には逃げ出せなくなるなどがわかりました。

実物大の階段やドアを使った体験型の実験も行いました。階段では、地上に30センチの浸水があると、秒速4メートルを超える水が流れこんで避難ができなくなりました。ドアの前に40センチの水がたまると成人男性でもドアを開けるのが困難になります。その延長で、高架下のアンダーパスで自動車が立ち往生した時の脱出や、車が漂流した場合の危険性なども調べてきました。

●「人の役に立つ研究」を目指す●

それらの研究は、テレビのニュース番組などでも取り上げられましたね。

研究を進めるうちに1999年に福岡市、2000年に東海地方で実際に都市水害が起きました。福岡市では街を流れる御笠川が氾濫して地下鉄博多駅や地下街が浸水し、ビルの地下では女性1人が亡くなりました。東海地方では1日半で500ミリを超える雨が降り、地下鉄に水が入り、電気・ガスが止まって都市機能が麻痺しました。これらの水害で、対策の必要性など都市水害への関心が高まり、頼まれてテレビ番組にも出ました。私の研究のスタンスとして、現実の問題に結びつくことをやりたい、同じやるなら「人の役に立つことをしたい」というのがありました。やってきたことが無駄ではなかったと思っています。

●車と地下に注意が必要●

都市水害の特徴や、どのような対策が必要か教えて下さい。

特徴のひとつは、地下鉄や地下街、地下室など地下空間を活用しているゆえの水難事故の危険があること。もうひとつは交通機能、都市機能、ライフラインなどを麻痺させて市民生活に大きな影響をもたらすということです。

対策としては、これまでの都市水害でなにか起きたかをよく知り、そのメカニズムや、どういう雨が降れば、どうなるかまで丁寧に予測して総合的な対策を立てることです。ハード面では大雨の時に雨水をいったん溜める施設を公園などの地下に造ることも有効でしょう。ソフト面では特に車と地下空間について注意すべきです。氾濫しても地下に水を入れないう工夫し、もし水が入ってきても素早い避難ができるように備えること。車については早めに交通規制をしたり、ドライバーに危険を知らせたりすることが大切です。

そして最後には「自分の身は自分で守る」。都市水害の危険性をよく知ってもらい、普段から意識してもらえればありがたいと思います。

●自由で楽しかった高校時代●

堀川高校時代を振り返って。

自由だったので、楽しかった。先生からどうこううるさく言われるわけでもなく、おおらかで、大学に似たような雰囲気がありました。私服だった好きな服を着ていけるのもよかったです。個性的でいろいろユニークな人もいたが、お互いに認め合っていました。先生たちも懐が深かったですね。とてもいい高校生活だったと思っています。

●好きなことに挑戦を●

今の高校生に伝えたいことはありますか。

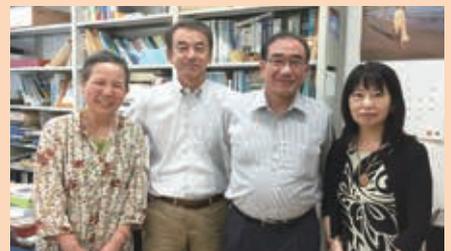
最近では世の中全般の風潮として、数字的なもので何でも評価してしまいがち。それにこだわりすぎている気がします。偏差値や成績などの数字では測れないところにも、その人の良さ、値打ちがあると思う。自分の好きなことにどんどん挑戦してほしいと思います。

【奥村一弘、小山(小林)庸子、中西弘子が取材しました】

戸田君の取材を終えて…

話を聞かせてもらった京都大学桂キャンパスは、「ここ外国？」と思うほど広々として、気持ちのよい高台にありました。戸田君と会うのは久しぶりでしたが、気さくに、昔と同じ雰囲気でも迎えてもらい、うれしい時間を過ごさせてもらいました。堀川では3年生の時に同じクラスでした。「誰も出ないから」と生徒会長を引き受け、文化祭では「クリスマスキャロル」の主演を好演して、クラスを引っ張って行ってくれた「トンチ」。時を経て、いろんな経験と出会いのあと、今は次の世代に、どのようにバトンを渡していくのかを考え始めているとのこと。同級生なのにとっても大きく見えました。後進を導きつつ、これからも「みんなのためになる研究」を続けてほしいと思います。

【小山】





同窓生インタビュー

高橋祥二郎 さん

(高27期 昭和50年卒)

滋賀銀行
頭取

●自由な校風●

堀川高校時代の思い出をお聞かせください

私の実家は元々呉服関連の商売をしていました。子どもの頃から父親に「商業高校を出て家業を継ぐか、手に職をつけて独立し商売人になりなさい」と言われ続けていました。私としては高校、大学に進学したいという強い思いがあり、父を説得し公立普通科を受験して堀川高校に進学しました。

入学後は中学時代3年間続けていたサッカー部にいったものの、1年生の冬に慢性的な膝の痛みが治らず休部することになりました。その後は勉強に集中するわけでもなく、バイクで釣りやいろんな所に出かけたり、また夏・冬の休みは同級生と一緒にアルバイトをして、貯めたお金で旅行したり自由で楽しい高校生活を送りました。

受験勉強を本格的に始めたのは高校3年の4月からで、受験で悩んだ記憶はありません。まさに「大学のような高校であった」との印象が強く、良い意味で大変自由な校風だったと思います。

●イズムは引き継がれている●

現在の母校をどのように思われますか。

以前にテレビで母校の特集を見ました。進学校というよりも、意欲的に研究しながら自分の能力を高めていく。また、既成概念に捉われず、絶えず新しい発想で創造していく高校として取り上げられていました。これらはやはり堀川高校らしさであり、自由な校風、イズムが引き継がれていると感じました。東大、京大に何人合格したということだけでなく、最高の“学ぶ場”としての雰囲気をもった立派な高校となり、卒業生として誇りに感じたのを思い出します。

●蒼天なきにあらず●

自らの経験から若い卒業生や社会人へのメッセージ、エールをお願いします。

人はそれぞれ大なり小なり夢をもっています。私は、何があってもその夢を持ち続けてほしいと思います。人生には挫折や失敗がつきものです。しかし、強い信念と哲学をもってことにあたれば、必ず道は拓けるものです。決して諦めず、努力していただきたいと思います。

私の好きな言葉に、吉田松陰の「黄霧^{こうむ}四塞^{しそく}すといえども、上に蒼天^{そうてん}なきにあらず」という言葉があります。

どんなに濃い霧が四方を覆い尽くし、一步も前へ進めなくなってしまうとしてもその上には必ず青い空がある。だから諦めずに踏み止まりやり抜くことが大切、との意味です。私もそういう思いで仕事をしてきました。

もう一つは社会人になられたら自身の仕事や家族のことだけでなく、社会との関わりを大切にしたいということです。最近の若い方は、個人の世界に閉じこもりがちであり、時代がそのようにさせているところもありますが、仕事や日常生活を通じて社会との関わりをもっと持ち、これからのことを考えていただきたいと思います。

●ファーストコミュニケーションバンクを目指す●

昨年4月の頭取ご就任おめでとうございます。是非、抱負をお聞かせください。

地方銀行の使命は、地域貢献と地元の中堅中小企業を育成・サポートすることです。そして個人のお客様のあらゆる金融ニーズにお応えすることです。単にお金をお預かりし、ご融資させていただく(金融仲介業)だけでは私たちに未来はありません。

お客様の声を聴き、お客様のビジネス等のお役に立てる銀行、つまり、「総合金融情報サービス業」とならなければ生き残れません。そのためには日頃からコミュニケーションを図り、お客様から一番に相談され、最も早く、親切・親身に対応する“ファーストコミュニケーションバンク”を確立し、お客様に顔が見える、心が通う銀行となることが大切であると考えています。

●京都戦略室の立ち上げ●

貴行の京都戦略を教えてください。

滋賀銀行京都支店の歴史は古く昭和13年に京都に進出しています。これは、わが国の地方銀行が都市部に進出する先駆けとなりました。当時、華々しい業界であった京町の和装業界に滋賀県出身者が多かったことによるものです。そして高度成長期から今日に至るまで、京都の優良企業や中小企業との取引拡充を図ってきました。

弊行にとって京都は重要な営業エリアであり、現在15店舗で営業させてもらっています。更に営業強化を図るために昨年6月、「京都戦略室」を立ち上げました。京都戦略室はコンサルティング業務など、新たな付加価値を生み出しビジネスに役立つ提案を積極的に行っています。お陰様で京都エリアの業績も順調に推移致しております。

地域の発展、お客様の発展がなければ、滋賀銀行の発展もありません。これからも、前向き志向で明るい地元密着型金融機関(Th e・ちぎん)としてお客様の様々なニーズにお応えしていきたいと考えています。

【上田 孝、菅生泰典、能勢(直井)希久子が取材しました】



高橋君の取材を終えて…

滋賀銀行の広く豪華な応接室に通され緊張する中、立派な風貌をたたえた高橋君が現れました。最初は緊張感の中でインタビューが始まりましたが、高校時代の文化祭の演劇に出られた話とか、淡い恋愛の思い出話くらいから気持ちも解れ、つつい失礼な質問もしてしまいました。お許し下さい。堀高時代の優しくハニカミやさんで、笑顔の素敵な高橋君が、今も健在で嬉しくなりました。同席された広報の方も「実直で、信頼できる上司です。今後も、ついていきたい」と話しておられました。それは高校の時、私たちが持っていた彼のイメージそのものでした。真面目で責任感のある高橋君が、今後も滋賀銀行を引っ張っていかれると思います。お忙しい中、ありがとうございました。

【能勢】



第109回 堀川同窓会

～ 今年の同窓会楽しいよ～

堀川の同窓生が祝舞や漫才を披露してくれます

日時 平成29年4月29日（土）

場所 京都ロイヤルホテル&スパ

時間 午後5：30～

会費 7,000円

テーブルバイキングでコース料理をお楽しみください

今回、暖かくて楽しい同窓会にしたいと思います。

それには多数の同窓生のご参加が必須です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

実行委員長 高28期卒 荒木 泰博

副委員長 高28期卒 村木 博隆

祝 舞 披 露

宮川町「ふく葉」(藤原温美)

昭和51年 堀川高校卒業後 京都五花街の一つ宮川町で芸妓として店出し

昭和56年 長唄三世 今藤長十郎師より名取を許される

平成15年 舞踊若柳流 若柳吉藏師より名取を許される

現在 宮川町芸妓組合長として春の京おどり秋のみずゑ会に立方、地方で出演



宴会では、宮川町芸舞妓さんたちに皆さんのテーブルを回って花を添えていただきます。

漫 才

漫才師「ネイビーズアフロ」

皆川勇氣：堀川高校 平成23年卒業後、神戸大学卒業 大阪NSC33期生

羽尻紘規：堀川高校 平成23年卒業後、神戸大学卒業 大阪NSC33期生



堀川卒では珍しく、漫才の道に進んで若手のホープとして頑張っている二人の出演を楽しみにしてください。

米田元校長、ご逝去

元校長の米田貞一郎(よねだ・ていいちろう)さんが、2016年6月7日、老衰のため106歳で逝去されました。

堀川高校には1952年7月から1963年3月まで約10年間、校長として勤務され、1948年の新制高校発足以来まだ日の浅



い時代の高校運営に力をつくされた。

その後、市教委に異動されたが、市立高校に寄せる思いが強く、「北斗会」という校長のOB会を創設して現役の校長を応援された。北斗会の名の由来は当時7校あった京都市立高校を北斗七星にたとえたことによる。

最後の就任校であったこともあり、特に堀川高校に対する思いが強く、毎回の同窓会に参加された。また、北朝鮮に拉致された横田めぐみさんの母・早紀江さんが堀川高校在学時に校長だったことから「救う会京都」の立ち上げに尽力され、署名活動にも参加されていた。

晩年まで言語明晰な方で、米田さんが揮毫された「絆」という書を、PTA歴代役員と歴代校長が石碑にして、101歳になられた2010年12月、堀川高校に寄贈した。堀川統合の象徴として玄関前に置かれ、関係者を今も見守っています。

【大和田敬人】

堀川同窓会ホームページ リニューアルオープン

① トップページ	② 母校は今	③ 沿革	④ 校長インタビュー	⑤ 同窓会写真	⑥ 同窓会の歩み	⑦ お問合せ
⑧ 活躍する卒業生	⑨ 学年別同窓会	⑩ 会報誌	⑪ 同窓会事務局	⑫ 役員ご挨拶	⑬ 会員データ変更	⑭ 110回記念大会

⑦活躍する卒業生

各界で活躍する卒業生の情報を掲載しています。是非、見てください！自薦他薦を問いませんので、投稿お願いします。

⑧学年別同窓会

学年別の同窓会開催情報を掲載しています。学年別同窓会のホームページの紹介もしています。

⑫会員データ変更

同窓会名簿の住所変更などはここから！



- ①堀川文化祭情報など
- ②堀川高校の沿革がわかります
- ③恩田校長に突撃インタビューしました
- ④これまでの同窓会の写真はココ
- ⑤堀川同窓会の歴史がわかります
- ⑥何でもお問合せください
- ⑦これまでの会報誌履歴はココ
- ⑧同窓会運営情報がわかります
- ⑨同窓会会長をご存知ですか？

【イベント情報】

110回記念大会

平成30年度同窓会は110回記念大会として、ヴァイオリニスト葉加瀬太郎さん(昭和61年卒業)をお迎えしてコンサートを予定しています。開催要項を順次アップする予定です！



注目!

堀川同窓会

検索

又は、<http://horikawa-dosokai.com/>

今すぐ

編集後記

「還暦」辞書で引くと、「干支(十干と十二支)が一巡し、生まれた年にもどること」とある。また、「論語」に「六十にして耳順い」すなわち、「耳にどんな話が聞こえても、動揺したり腹が立つことがなくなる」とある。

これを、私達は、新たなスタートと受けとめたい。ならば、先ずは過去を振り返り、現在の周りを見て、そして他人や世間に動じることなく、自分の将来を創造するよい機会である。

昨年、我々還暦学年の全体同窓会を行った。同級生が一室に会し、旧交を温め語り合った。これからの人生に心強い仲間が数多くいてくれることの幸せを皆で感じ合った。

同様に、本誌作成に際し、現役高校生の爆発力、探求心、そし

てそれを支える先生方、また各界で活躍されている同窓生を取材するにつけ、それぞれ歩いていく道は違えども、また、歩んできた道は様々なれど、同じ庭で学んだ者達が堀川同窓会のもとでひとつになれる。今更ながら、堀川高校の素晴らしさを再確認した。

実行委員として、この1年を振り返り、4月に盛大かつ格調高い同窓会を行い、今、こうして本会報を発行するに至り、先輩諸氏およびお世話になった方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

109回堀川同窓会報作成委員長 上田 孝